この町にもかつて異界があった

※出典は『土佐化物絵本』『絵本集艸』『山田・南国伝説散歩』『山田文化小史』より。

土佐山田異界散歩

雨乞いの怪　**耳うどて**

高名な僧が七日七夜雨乞いをすると、黒雲が舞い降りて怪物が渕に降り立って水を浴び、夕立となった。ところが怪物が口から虹を吹き出すと、見る見るうちにもとの晴天に戻った。

天狗の婚礼　**コウヤ堂**

ある夜更けにコウヤ堂からざわめく人の声が聞こえた。よくよく聞くと大松の上で天狗が婚礼をしている。しばらく聞いていたが、一番どりが鳴き始めると天狗たちは消えうせた。

阿波軍の亡霊　**阿波塚**

長宗我部に敗れた阿波国の軍勢が亡霊となって出た。元親が国分寺で７日間にわたり般若心経を上げさせると、亡霊は静まったという。

七人ミサキ

長宗我部の重臣・比江山親興の一族郎党７人が世継ぎ争いの末に殺され、７人組の怨霊となった。これに出合うと高熱で死に、古参のメンバーが成仏する。代わりに取り殺された者が新メンバーに加えられるという。

シバテン　**ウワノの辻**

山田野地町の大黒屋友右衛門がシバテンと相撲を取った。取り続けるうちに疲れ果てて、腹も減ったので一度家に帰った。髪を乱し血まみれで帰った主人に家の者は驚き、半狂乱で再び相撲を取りに出て行こうとする友右衛門を必死で止めたという。

ごぎゃあ鳴き　**カラ堀**

夜響き渡るごぎゃあ鳴きの声を聞くと、病気にかかるという。有名なこなき爺に通じる妖怪。

首切り地蔵

長宗我部国親に敗れた談議所城主・山田監物の墓があったらしい。恐ろしげな名前だが、首から上の病気にご利益があるとか。

【大きな手】出典…土佐化物絵本（高知県立文学館蔵）

想像してみよう。街灯の光はなく、人の気配もない。
深い夜の闇に閉ざされていたころの町の空気を。